



平成30年11月21日

**第27回ペスタロッチー教育賞
表彰式・記念講演、記者会見のご案内**

広島大学大学院教育学研究科とペスタロッチー教育賞実行委員会は、優れた教育実践を行っている個人・団体を顕彰する第27回ペスタロッチー教育賞の表彰式及び記念講演並びに受賞者の記者会見を、平成30年12月14日（金）に東広島キャンパスで開催しますのでご案内いたします。

記

受賞者：和田晋氏（広島市教育委員会 主事／広島市立二葉中学校 前校長）
受賞団体：児童養護施設 舞鶴学園

表彰式・記念講演

日 時：平成30年12月14日（金）12:50～14:20

場 所：広島大学大学院教育学研究科 L205 講義室

後 援：もみじ銀行、中国新聞社

プログラム：

- ・主催者挨拶 ペスタロッチー教育賞実行委員会委員長（広島大学長）越智光夫
教育学研究科長 小山正孝
- ・祝 辞 もみじ銀行頭取 小田宏史氏
- ・表彰状授与及び胸像贈呈
ペスタロッチー教育賞実行委員会委員長（広島大学長）越智光夫
- ・記念品贈呈 中国新聞社代表取締役社長 岡谷義則 氏
- ・記念講演 ペスタロッチー教育賞受賞者 和田晋 氏
ペスタロッチー教育賞受賞団体 児童養護施設 舞鶴学園
理事長 桑原教修 氏

記者会見

時 間：記念講演終了後、14:30～（15分程度）

場 所：広島大学大学院教育学研究科 第二会議室

※ これまでの受賞者一覧等は、本学ホームページをご覧ください。
（大学トップページ → 大学院教育学研究科・教育学部のページ → ペスタロッチー教育賞）
<http://hiroshima-u.jp/ed/pestalozzi>

【お問い合わせ先】

本賞・受賞者に関すること

広島大学大学院教育学研究科教育学講座 三時・吉田

TEL : 082-424-6737/6742

表彰式・記念講演に関すること

広島大学教育学研究科支援室（総務・人事担当） 永富・岸本

TEL : 082-424-4684/5605

発信枚数：A4 / 6枚（本票含む）

第 27 回ペスタロッチー教育賞受賞者および受賞団体に、和田 晋（わだ すすむ）氏と舞鶴学園（まいづるがくえん）が選ばれましたので発表いたします。

【第 27 回ペスタロッチー教育賞 受賞者】

広島市教育委員会 教育センター

和田 晋（わだ すすむ）

【略歴】

1956 年に出雲市に生まれ、広島大学教育学部へと進学し、当時の教育研究室にて大谷光長教授および藤井敏彦教授からケルシェンシュタイナー教育とマカレンコ教育の最先端に触れるとともに、長田新教授の著作・翻訳を通じてペスタロッチーの教育と出会う。1982 年に広島大学大学院学校教育研究科修士課程を修了し、広島市内の公立中学校に国語科教員として着任する。校内暴力の嵐が吹き荒れ、貧困を背景とした子どもたちの荒れが学校において噴出していた着任当時の生徒を目の当たりにした和田氏は、1988 年から広島市内繁華街を中心に夜回りを始め、2003 年からは広島市教育委員会にて暴走族対策と少年自立支援を担当することとなった。2008 年には広島市立可部中学校教頭として学校現場に復帰し、2010 年からの広島市立亀崎中学校校長を経て、2013 年から 2017 年までの 4 年間に亘って広島市立二葉中学校の校長を務めた。校長退任後は広島市教育委員会教育センターに勤務している。

【受賞理由】

和田氏は 30 年以上に亘って、学校の教師として子どもたちの教育にあたりながら、夜回りを通じて居場所のない子どもたちにペスタロッチーの精神で根気強く声をかけ続け、子どもたちの声に耳を傾けてきた。今回はこの長年の活動が評価されての受賞となった。

広島市内繁華街を中心とした夜回りで出会う子どもたちは、貧しい家庭環境に育ち、周囲の誰からも愛されることのない子どもたちであった。この子どもたちにペスタロッチーの愛の精神でぶつかっていった和田氏は、家庭訪問を繰り返し、深夜の夜回りに出かけては、暴力団から抜け出させることもたびたびであった。

校長として着任した二葉中学校区は「こども療育センター」をはじめとする福祉施設や児童養護施設をかかえ、多様な背景や課題のある子どもたちが通学している。和田氏は、二葉の F を頭文字とする 3F（Family, Friendly, Future）をスローガンとして、過去を振り返るのではなく未来に向かうチャレンジを家族のような絆を軸に実現していく理念を、教職員だけではなく生徒および保護者とも共有しながら学校経営にあたった。4 年間の校長としての取組は、居場所を失って深夜の街を徘徊する子どもたちに声をかける夜回りと同様に、学校や教室を飛び出す生徒たちに「ゆっくり」「じっくり」と声をかける教職員との取組へと通じるペスタロッチーの精神に根ざした実践であった。

居場所を失い徘徊する子どもたちに、過ちやつらい記憶とともにある過去を見つめさせるのではなく、あたたかいまなざしのもとで未来へと励まし続けた和田氏の取り組みは、困難な状況に置かれた子どもたちに愛の精神でまなざしをかけ、人間学校の探究のもとで人間を人間にする教育を実践してきたペスタロッチーの精神に通じるものである。今日の地域の場合及び学校教育の場における和田氏の長年に渡る地道な実践に対し、第 27 回ペスタロッチー教育賞を贈り、その功績を称えたい。

【第 27 回ペスタロッチー教育賞 受賞団体】

児童養護施設 舞鶴学園

【略歴】

舞鶴学園は、元新聞記者の山口勲氏が、1946年に有志数名と共に「財団法人 日本青少年自彊学会」を創設し、戦争孤児 11 名を引き取って養育を開始したことに始まる。戦争孤児の養育の場として始まった「舞鶴自彊学園」は、1948年に児童福祉法の制定によって約 50 名を収容する養護施設となり、1952年には社会福祉法人の認可を受けて、「舞鶴学園」と名称を改めた。2001年には泉源寺へ移転(定員 70 名)し、小舎制を導入して新たなスタートを切るとともに、認可保育所タンポポハウス(定員 40 名)を開所した。また 1995年には児童家庭支援センター「中丹こども家庭センター」を開設している。児童養護施設舞鶴学園の様子は 2008年に MBSTV ドキュメンタリー映像「08『家族の再生』」として、2015年にNHKハートネットTV戦後 70 年『戦争孤児から虐待まで』として放映され、大きな反響を呼んだ。また 2015年には韓国の児童福祉施設との日韓交流(単独)事業 20 年目を迎えて、「高円宮記念日韓交流基金」より名誉総裁章を受賞している。

【受賞理由】

舞鶴学園は、戦後 70 年以上にわたり、児童養護施設として、虐待や貧困、保護者の死や病気等、なんらかの理由で保護者とともに暮らすことができなくなった子どもたちに生活の場を提供し、彼らの生活を支えてきた。今回はこの長年の活動が評価されての受賞となった。

ペスタロッチーの孤児院実践と同様に戦争孤児に養育を提供する場として始まった舞鶴学園は、少子化や社会情勢の変化によって子どもたちを取り巻く環境も彼らが抱える問題も複雑化し、従来の大人数を対象にした施設経営の限界を感じるようになる。そのため学園は、「問題を抱えた子どもたちが自分を取り戻していく場として、「一人ひとりが大切に受け止められている」「大人は信頼するに足る存在である」と実感することができる場として機能する必要がある」との認識に基づき、家庭的な雰囲気での養育の可能性を模索することになる。

日本の多くの児童養護施設がとっている大舎制から、一舎につき 12 名以下を定員とする小舎制への移行は、「子ども会」という組織を学園内に設置し、子どもたちが自分たちの意見をまとめて生活に反映させる仕組みづくりへとつながっていった。こうした取り組みが、子どもたちが家庭的な暖かさと信頼感を感じることでできる距離感、さらには人との関わりの大切さと自己が存在することの意味を体験しながら育ち合うことを可能にしている。

戦争孤児の救済・養育から始まり、子ども一人ひとりに寄り添いながら家庭的な雰囲気の中で養育しようと奮闘してきた舞鶴学園の取り組みは、貧民・孤児のために身を尽くしたペスタロッチーの思想と実践にまさに通じるものである。舞鶴学園の長年の活動に対し、第 27 回ペスタロッチー教育賞を贈呈し、高く顕彰したい。

受賞者 和田 晋 氏

(広島市教育委員会 主事／広島市立二葉中学校 前校長)



受賞団体 児童養護施設 舞鶴学園

(理事長 桑原 教修 氏)

(舞 鶴 学 園)



第 27 回ペスタロッチー教育賞 表彰式及び記念講演

- 日 時 平成 30 年 12 月 14 日 (金) 12:50~14:20
表彰式 12:50~
記念講演 13:20~
- 場 所 広島大学大学院教育学研究科 L205 講義室
(東広島市鏡山一丁目 1 番 1 号)
- 主 催 広島大学大学院教育学研究科, ペスタロッチー教育賞実行委員会
- 後 援 もみじ銀行, 中国新聞社
- 受賞者 和田 晋 氏
(広島市教育委員会 主事/広島市立二葉中学校 前校長)
- 受賞団体 児童養護施設 舞鶴学園

プログラム

- 1 開会の辞
- 2 主催者挨拶
ペスタロッチー教育賞実行委員会
委員長 (広島大学長) 越 智 光 夫
広島大学大学院教育学研究科長 小 山 正 孝
- 3 祝 辞
もみじ銀行頭取 小 田 宏 史
- 4 表彰状授与及び胸像贈呈
ペスタロッチー教育賞実行委員会
委員長 (広島大学長) 越 智 光 夫
- 5 記念品贈呈
中国新聞社代表取締役社長 岡 谷 義 則
- 6 記念講演
ペスタロッチー教育賞受賞者 和 田 晋
ペスタロッチー教育賞受賞団体 児童養護施設 舞鶴学園
理事長 桑 原 教 修
- 7 閉会の辞

問合せ先

【本賞及び受賞者に関すること】

広島大学大学院教育学研究科 三時・吉田

TEL: (082) 424-6737・6742

【表彰式, 記念講演及び会場等に関すること】

広島大学教育学研究科支援室 (総務・人事担当) 永富・岸本

TEL: (082) 424-4684・5605



広島大学

【FAX返信用紙】

FAX：082-424-6040

広島大学財務・総務室 広報部 広報グループ 行

第27回ペスタロッチー教育賞表彰式・記念講演、記者会見のご案内

<表彰式・記念講演>

【日 時】 12月14日(金) 12:50~14:20

【場 所】 広島大学大学院教育学研究科 L205 講義室

<記者会見>

【時 間】 記念講演終了後、14:30~(15分程度)

【場 所】 広島大学大学院教育学研究科 第二会議室

ご出席 【表彰式・記念講演】 ・ 【記者会見】

※お手数ですが、参加される項目に○をしてください。

ご欠席

貴社名 _____

部署名 _____

ご芳名 _____ (計 名)

電話番号 _____

誠に恐れ入りますが、上記にご記入頂き、12月13日(木)12時まで
にご連絡願います。